

富津市在宅医療・介護連携推進会議 会議録

1	会議の名称	令和4年度第2回富津市在宅医療・介護連携推進会議																																																						
2	開催日時	令和5年3月9日(木) 18時30分～19時30分																																																						
3	開催場所	ZOOMによるオンライン及び富津市役所5階502・503会議室																																																						
4	審議等事項	<p>(1)各ワーキンググループにおける令和4年度の実績について</p> <p>(2)君津圏域医療・介護多職種連携エチケット集の検討について</p> <p>(3)君津圏域多職種連携情報共有システム(バイタルリンク)利用の手引きの検討について</p> <p>(4)在宅医療・介護連携が求められる4つの場面(日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応及び看取り)での目指すべき姿の設定と今後の会議の方針について</p>																																																						
5	出席者名	<p>(委員)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名(敬称略)</th> <th>参加方法</th> <th>氏名(敬称略)</th> <th>参加方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三枝 奈芳紀</td> <td>来庁</td> <td>川口 哲也</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>細井 尚人</td> <td>ZOOM</td> <td>熊切 篤</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>水町 裕義</td> <td>ZOOM</td> <td>大島 拓二郎</td> <td>ZOOM</td> </tr> <tr> <td>中野 匡</td> <td>来庁</td> <td>宮野 京子</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>小柴 奈美</td> <td>来庁</td> <td>西川 加代</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>重田 友理</td> <td>来庁</td> <td>山中 しのぶ</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>牧 達人</td> <td>来庁</td> <td>亀田 兼佑</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>有江 直樹</td> <td>来庁</td> <td>和泉 喜章</td> <td>ZOOM</td> </tr> <tr> <td>早川 清子</td> <td>来庁</td> <td>村田 泉</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>小幡 伸吾</td> <td>来庁</td> <td>門屋 千鶴</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>三辻 暁美</td> <td>来庁</td> <td>小嶋 一代</td> <td>ZOOM</td> </tr> <tr> <td>藤野 雅一</td> <td>ZOOM</td> <td>長谷川 栄</td> <td>来庁</td> </tr> </tbody> </table>			氏名(敬称略)	参加方法	氏名(敬称略)	参加方法	三枝 奈芳紀	来庁	川口 哲也	来庁	細井 尚人	ZOOM	熊切 篤	来庁	水町 裕義	ZOOM	大島 拓二郎	ZOOM	中野 匡	来庁	宮野 京子	来庁	小柴 奈美	来庁	西川 加代	来庁	重田 友理	来庁	山中 しのぶ	来庁	牧 達人	来庁	亀田 兼佑	来庁	有江 直樹	来庁	和泉 喜章	ZOOM	早川 清子	来庁	村田 泉	来庁	小幡 伸吾	来庁	門屋 千鶴	来庁	三辻 暁美	来庁	小嶋 一代	ZOOM	藤野 雅一	ZOOM	長谷川 栄	来庁
氏名(敬称略)	参加方法	氏名(敬称略)	参加方法																																																					
三枝 奈芳紀	来庁	川口 哲也	来庁																																																					
細井 尚人	ZOOM	熊切 篤	来庁																																																					
水町 裕義	ZOOM	大島 拓二郎	ZOOM																																																					
中野 匡	来庁	宮野 京子	来庁																																																					
小柴 奈美	来庁	西川 加代	来庁																																																					
重田 友理	来庁	山中 しのぶ	来庁																																																					
牧 達人	来庁	亀田 兼佑	来庁																																																					
有江 直樹	来庁	和泉 喜章	ZOOM																																																					
早川 清子	来庁	村田 泉	来庁																																																					
小幡 伸吾	来庁	門屋 千鶴	来庁																																																					
三辻 暁美	来庁	小嶋 一代	ZOOM																																																					
藤野 雅一	ZOOM	長谷川 栄	来庁																																																					

	(事務局) 中村明美、飛澤賢宏、千葉眞知
6 公開又は 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の 理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 所管課	健康福祉部介護福祉課 高齢者支援係 電話 0439-80-1300
9 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言要旨
<p>事務局 (中村係長)</p>	<p>定刻となりました。</p> <p>本日欠席される旨ご連絡をいただいている方を除き、お集まりいただいております。</p> <p>本日はZOOMによりご参加いただいている委員の方もおられます。聞こえにくいなど支障がありましたら、アクションボタンなどでアピールしていただければと思います。</p> <p>会議を始める前に、配付資料の確認をいたします。</p> <p>事前にお配りしたものは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次第 ● 議題関連資料 <p>です。</p> <p>当日配付したものは、4つの場面ごとの目指すべき姿です。</p> <p>不足がございましたら、資料をお持ちしますので、挙手をお願いいたします。</p> <p>ZOOMでご参加の方は、本日、会議中に画面共有をいたしますので、画面を見ていただければと存じます。</p>
<p>事務局 (中村係長)</p>	<p>本会議の傍聴についてお知らせします。</p> <p>富津市情報公開条例第23条第1項の規定により、市の付属機関等である審議会等の会議は一部の場合を除いて公開で行うべきものとされており、同条第2項の規定により何人も公開とされた会議を傍聴することができることとされております。</p> <p>この規定により、本日、会議を傍聴される方がいらっしゃいますので、ご報告申し上げます。</p> <p>また、傍聴人の方にお問い合わせ申し上げます。傍聴受付の際に</p>

	<p>お渡ししました傍聴証に記載してありますとおり、会議の進行を妨げる発言、行動をされないようお願いいたします。このような行為があった場合は、直ちに退席いただくこととなりますので、ご注意願います。</p>
<p>事務局 (中村係長)</p>	<p>それでは、ただ今より、令和4年度第2回富津市在宅医療・介護連携推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>また、議事録作成のため、会議の内容を録音させていただいておりますので、ご了承くださいるようお願い申し上げます。</p> <p>お手元の次第により、進めさせていただきます。</p> <p>開会にあたり、三枝会長からごあいさつをお願いいたします。</p>
<p>三枝会長</p>	<p>三枝でございます。皆さま遅くからご苦労さまです。よろしく申し上げます。</p> <p>この会議のお陰で、富津市も、医療介護の連携が、ぼちぼちですが進んできて、充実したものになりつつあるかと思えます。</p> <p>先日、バイタルリンクの勉強会がありました。こういったものを通して、(医療介護の連携が)進んでいければ良いと思いますが、バイタルリンクでいちばん大事なものは、まず、登録していただくことかと思えます。できるだけ多くの方が登録し、活用していただく。なかなか活用は難しいと思えますけれども、こういったものは、やりながらより良いものにしていく、というのが大事かと思えますので、是非よろしくお願いしたいと思います。</p> <p>本日も議題がたくさんありますので、活発なご議論をいただければと思います。よろしく申し上げます。</p>

事務局 (中村係長)	<p>ありがとうございました。富津市在宅医療・介護連携推進会議設置要綱第6条に「会長は議長となる」と規定されていますので、三枝会長に議事進行をお願いいたします。</p>
三枝会長	<p>それでは、議長を務めさせていただきます。</p> <p>初めに、私から本日の会議の議事録署名委員の指名をいたします。小嶋委員を議事録署名人に指名しますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、会議次第に沿って、進めさせていただきます。</p> <p>(1)「各ワーキンググループにおける令和4年度の実施について」を議題といたします。</p> <p>まず、「在宅医療・介護連携部門ワーキンググループの実施について」グループ長である私から説明いたします。</p>
三枝会長	<p>議題関連資料1ページをお開きください。</p> <p>在宅医療・介護連携部門ワーキンググループの実施について、説明いたします。</p> <p>令和4年12月8日にワーキンググループを開催しました。そのときの内容等について報告します。</p> <p>まず、(ア)マイライフノートの作成について、です。(株)鎌倉新書と市が協定を締結し、令和5年3月までにマイライフノートを作成することになり、表紙のデザインや記載事項について協議しました。</p> <p>マイライフノートの詳細は、別添資料のとおりです。</p> <p>次に、(イ)グループワークです。ACPや困りごと、身寄りの有無に関わらず安心して暮らせる地域づくりについて、意見交換をしました。今後、身寄りのない方への対応や、看取り、救急対応について、更に協議していく必要があるかと感じております。</p> <p>3ページをお開きください。最後に、(ウ)多職種連携情報共有システム・バイタルリンク勉強会の開催について、です。</p>

2月3日に開催し、医療・介護の事業所の方々55名にご参加いただきました。講師として、バイタルリンクというICTツールを提供している帝人ファーマ株式会社の伊藤様と、バイタルリンクを活用している富沢産業株式会社の富沢様をお迎えしました。

下線部のとおり、バイタルリンクは「電子上の連絡ノート」というイメージです。厚生労働省のセキュリティ基準を満たしたLINEのようなツールと考えていただいてよろしいかと思います。

記載のとおり、4つの特徴について説明がありました。

- ①多職種間で時間や場所に左右されずに情報を共有する。
- ②多職種間で患者のバイタル値が〇〇になるといった変化があれば連絡を取り合う、といったポイントを共通化する。
- ③バイタルデータが管理できる。
- ④個人情報の管理等について、安心・安全なシステム設計とフォローアップ体制がある、ということです。

また、富沢様からは実際にバイタルリンクを活用するなかでの具体的な事例発表がありました。4ページをお開きください。ICTは、顔の見える関係のための潤滑油です。ICTありきではなく、ICTは柱の一つということで、明るい未来を開いて行けるとよいと思います。

その後、バイタルリンクを活用することでどういった目指すべき姿を設定することができるか、というテーマを元に、グループワークを行いました。

5ページをお開きください。これは、伊藤様の説明を元に作成した、バイタルリンク上のネットワーク組織図です。大元のS管理者として医師会があり、管理者として君津四市の行政や包括、とみざわ薬局グループ等があります。

医療・介護の事業所の皆さまは、利用者という枠組みにな

	<p>ります。バイタルリンクに登録された事業所は、管理者が特定の患者のチーム(グループ)に割り振られたあと、はじめてバイタルリンク上で連携を取ることができるようになります。</p> <p>ただ、患者個人の情報交換だけでなく、多職種のみでチームをつくり、情報交換することも可能です。</p> <p>皆さまにお願いです。まだバイタルリンクに登録されていない事業所におかれましては、ぜひ登録をお願いします。6ページに記載された利用申込書を市または地域包括支援センターへご提出ください。</p> <p>説明は以上です。</p>
三枝会長	<p>続きまして、「認知症施策部門ワーキンググループの取組について」グループ長の早川様から説明をお願いいたします。</p>
早川委員	<p>セントケア富津の早川です。認知症施策部門ワーキンググループの取組について、説明いたします。</p> <p>議題関連資料7ページをお開きください。</p> <p>令和4年12月14日、認知症施策部門ワーキンググループを開催いたしました。そのときの内容を報告いたします。</p> <p>まずは(ア)認知症サポーター養成講座修了ステッカーについて、です。</p> <p>認知症サポーター養成講座を修了した施設や企業にステッカーを交付することし、協議を経て図面のとおりステッカーを確定しました。今後、各施設等へ配付予定です。</p> <p>8ページをお開きください。</p> <p>次に、(イ)認知症ヘルプカードの作成について、です。</p> <p>本人の名前、住所、最寄り駅などを記載し、携帯してもらえるようなヘルプカードの作成を検討しております。認知症の方がヘルプカードを持ち歩くことで、本人が周囲の人に尋</p>

ねやすくなる、周囲の人も本人に声をかけやすくなる、といった効果を期待しています。

次に、(ウ)認知症ピアサポート活動の支援について、です。

本人の居場所づくりの一環として、生活支援コーディネーターを交えた農作業や認知症カフェを通じた仲間づくりの機会を検討しています。

次に、(エ)認知症サポーターチームオレンジの構築について、です。

認知症サポーター養成講座にて、サポーターを養成することが第1ステップです。第2ステップでは、チームオレンジとして、認知症サポーターが実際に活動していきます。記載の岩坂お助けクラブでは、認知症の方を含めた地域住民のために、ボランティアの方々が、受診や買い物の付き添い、ゴミ出しなどちょっとした困りごとのお手伝いをしています。

9ページをお開きください。(オ)認知症家族の会の立ち上げについて、です。

認知症と診断された家族が、同じ立場の家族と話し合ったり、仲間を見つけたりすることを目的に、家族の会の立ち上げを目指しています。

次に、(カ)千葉県認知症高齢者を抱える家族交流会の開催について、です。

2月15日、望みの門紫苑ホールにて、当事者や家族が悩みを共有したり、仲間をつくったりすることを目的に、家族交流会を開催しました。富津地区地域包括支援センターと協力し、認知症の人と家族の会千葉県支部の方を講師に迎えました。

次に、(キ)千葉県認知症地域医療支援事業について、です。

令和4年12月21日、望みの門紫苑荘にて、認知症サポート医から当事者や家族へのアドバイスを行うと共に、地域

	<p>課題を把握するため、認知症相談会を開催しました。川口哲也医師を講師に迎えました。</p> <p>次に、(ク)認知症メモリーウォークについて、です。</p> <p>事業所の皆さまから組織された実行委員会が主体となり、令和4年9月23日、イオンモール富津にて実施しました。チラシの掲示やクイズを実施し、認知症の普及啓発ができました。ご協賛いただいた各団体の方々に対し、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>最後に、(ケ)認知症サポーター養成講座の実施について、です。</p> <p>令和4年8月にきんこく塾という学童保育の児童を対象に、10月にいどぼたの会へ参加している高齢者を対象に、認知症サポーター出前講座を実施しました。また、令和5年3月3日には、大堀にあるヤマダデンキにて、職員の方と地域住民を対象に実施しました。</p> <p>以上です。</p>
三枝会長	説明は終わりました。質問はございませんか。
	(質疑なし)
三枝会長	質問もないようですので、以上で議題(1)を終了します。続きまして、(2)「君津圏域医療・介護多職種連携エチケット集の検討について」を議題とします。事務局に説明を求めます。
事務局 (飛澤)	(説明)
三枝会長	説明は終わりました。質問はございませんか。
	(質疑なし)
三枝会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>ACPについても、ICTについても、非常に奥が深いものですので、それぞれに検討会等を設けていく必要があるか</p>

	<p>と思いますが、エチケット集としては、こちらでよろしいでしょうか。以上で議題(2)を終了します。</p> <p>続きまして、(3)「君津圏域多職種連携情報共有システム(バイタルリンク)利用の手引きの検討について」を議題とします。事務局に説明を求めます。</p>
事務局 (飛澤)	(説明)
三枝会長	説明は終わりました。質問はございませんか。
三辻委員	<p>手引きの内容とは違ってしまいかもしれませんが、個人情報の同意書は、この書式でなければならないですか。</p> <p>なぜそれを聞いたかと言うと、(各事業所は、バイタルリンクの同意書とは)別に個人情報の同意書を取っているんですね。そこにこの「バイタルリンクも使用しますという」一文が入ればOKなのか、サインする書類は増やしたくないので、というところで、教えていただければと思います。</p>
事務局 (飛澤)	<p>事業所でサービス提供をいただくに当たって、契約書を取り交わしていらっしゃるのので、そこに一文を付け加えれば良いか、ということですよ。</p> <p>君津四市にて、そうしたご意見があったということで、提案させていただきます。ありがとうございます。</p> <p>⇒令和5年3月23日、木更津市、君津市、袖ヶ浦市と協議した結果、スタート時は手引きにある同意書を使用してICTに関する個人情報取り扱いの同意を取ることとし、今後、運用していくなかで不便な点を改善していくこととしました。</p>
三枝会長	他に何かございますか。
早川委員	(バイタルリンクは)今どれくらいの登録件数ですか。
事務局 (飛澤)	手元の資料では持っておりませんが、名前を挙げさせていただくと、三枝病院や花くじらさんなどが登録しております。

	<p>す。君津四市では100以上(約180事業所)になるかと思っています。富津市内に限ると、そこまで多くはありません。</p>
三枝会長	<p>他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、(バイタルリンクは)明日から皆さん使えるものですが、なかなかそれは難しいと思いますので、手引きをよく読んでいただき、一人でも多くが参加していただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上で議題(3)を終了します。</p> <p>続きまして、(4)「在宅医療・介護連携が求められる4つの場面での目指すべき姿の設定と今後の会議の方針について」を議題とします。事務局に説明を求めます。</p>
事務局 (飛澤)	(説明)
三枝会長	説明は終わりました。全体についての質問はありますか。
	(質疑なし)
三枝会長	<p>それでは、4つの場面毎に目指すべき姿を設定したいと思います。</p> <p>日常の療養支援の場面では、57頁ですね、「本人とご家族がどちらも、治療や介護サービス等を継続して活用し、健康管理や気持ちの変化を専門職で共有することにより、在宅で安心して暮らすことができる」、ということですが、ご意見ございますでしょうか。</p> <p>特に付け足すこと、削ることはありませんか。</p>
	(意見なし)
三枝会長	<p>それでは、この文章で良いということにさせていただきます。</p> <p>続きまして、次のページ、入退院支援の場面では、「本人の心身状態を把握したうえで体調の変化を早期に発見し、再入院のリスクを回避すると同時に、在宅での生活を継続する」</p>

	<p>ということで、ご意見ございますでしょうか。</p>
三辻委員	<p>この文言では、再入院を防ぐというのが第一の目指すところになってしまいます。</p> <p>私が想像する入退支援は、患者さん・利用者さんそのものが、生活の場面が変化しても、差がないように、スムーズに移行ができるというのが目指すところかと思っているので、そうした文言が入った方がよいかと感じました。</p>
三枝会長	<p>ありがとうございます。事務局いかがですか。</p>
事務局 (飛澤)	<p>ご意見ありがとうございます。在宅での生活と入院時の生活とで、患者さんの生活に差が出ないようにというところですかね。</p> <p>再入院という言葉を入れない方がよろしいですかね。</p>
三辻委員	<p>入院することだけで、たとえば元々認知症のある方が、環境の変化で認知症の症状が悪化してしまうとかではなく、できるだけ、家の生活と入院の生活の差が少なくなるような形で、スムーズに入院が受けられるところかと思っているので。そのために情報交換すると思うんですよね。</p> <p>たとえば、家では、お子さんはこのタオルを持って入れば良く眠れるとか、そのタオルなら病院に持っていけるじゃないかとか。高齢者の方でも電気が点いていればトイレまで行けるなど(ほかにも、自宅に帰ってからも薬が自分で管理できる(病院では看護師が管理していて、急に退院後はご自分で管理するようなことがあったりする)などのイメージも持っていました。)</p> <p>そういう情報があれば、入院生活が比較的スムーズになると想像しているので、その方の生活のところの情報交換をして、できるだけ入院時の混乱を避ける、退院してきたときも、退院後の混乱を避けるというようなイメージですが、通じますか。</p>

事務局 (飛澤)	<p>患者様にとって、病院での生活も、ご自宅での生活も、あまり環境に変化がなく、落ち着いて過ごせるようになるというイメージでしょうか。</p> <p>そうしましたら、この場で適切なあるべき姿のメッセージが出てこないんですけれども…</p>
有江副会長	<p>今の三辻さんの話を私たち介護の面からみると、その方らしさの支援という言葉に置き換えて話しています。</p> <p>その方にとってどうなのかというところをシームレスに考えて行くことによって、入退院という支援がスムーズになるんじゃないかというご発言だったのかと思いました。以上です。</p>
事務局 (飛澤)	<p>有江様ありがとうございます。</p> <p>その方らしさの支援というキーワードをいただきました。</p>
三枝会長	<p>これは、この場で文言を決めなければなりませんか。</p>
事務局 (飛澤)	<p>適切な文言があればと思いますが、この場で決めるのは難しいかもしれないので、一度お出しいただいたご意見を持ち帰りまして、メッセージをつくり、皆さまにご覧いただくという形にしましょうか。</p>
三枝会長	<p>たしかに、いただいた文章については、再入院のリスクを回避する、という文章ですよね。それに対して、三辻様が言われたのは、入退院のときのギャップをなくそうということで、移行をスムーズにするということ。ある意味、2本の柱とってもらっても良いかと思んですよ。</p> <p>市の方の文書は、これはこれとして、もう一つの柱として、入退院時の心身の状況にギャップが少なくなるように、情報共有して支援をしていく、という内容をまとめていただいて、目指す姿ということにするのはいかがでしょうか。</p>
山中委員	<p>良いと思います。</p> <p>要は見ている視点が違って、この文書は医療側から見た感</p>

	<p>じ、三辻さんが言われたのは介護側から見た感じ。介護側から見た感じをその方らしさという表現をするとしたら、医療側から見ると安全ということだから、安全に、その方らしさを支援する、と言う形にしたらどうかなど。</p> <p>どちらとも同じことを目指していて、そこの連携を図りましょうということ。見る角度が違うので、表現の仕方が違うのかと思いました。</p>
三枝会長	<p>ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、今のご意見を参考に(事務局が)作文し、メール等で流していただき、承認するという形でよろしいでしょうか。よろしく申し上げます。</p>
三枝会長	<p>続きまして、急変時の対応の場面では「医療と介護、救急(消防)が連携することにより、本人の意思を尊重したうえで、急変時に適切な対応ができる」ということですが、これに関してご意見ありますでしょうか。</p>
	<p>(意見なし)</p>
三枝会長	<p>それでは、この文言でよろしいでしょうか。</p> <p>最後の看取りの場面では、目指すべき姿を「最終的に、すべての利用者がよかったと思える理想の最後を迎えられるような看取りができるようにする」ということでよろしいでしょうか。</p>
事務局 (飛澤)	<p>三枝会長すみません、藤野様が挙手していただいていたので、藤野様、ご発言お願いします。看取りの場面でなくても大丈夫です。</p>
藤野委員	<p>急変時の対応の場面で、ここに載せる文章としてはこれで特に文句はないんですけども…実はいちばん困っているのは、本人の意思、が生命の危機的状態であるにも関わらず、救急車を要請しても拒否してしまうであるとか、そういうこ</p>

とで、圏域のケアマネジャーも、私たちも悩んでいるところ
です。

これに関しては、本人の意思を尊重するということで、予
めそういうことが分かっていたら良いんですけども、そう
ではなく、突発的に体調の変化があったとき、我々は動かな
ければいけないんですね。そのときに、本人の意思で入院し
ない、救急車に乗らないというときに、本当にそれで良いの
かというのが、悩ましいところ。

実際(令和5年)2月に、ケアマネさんが、体調不良の方に
救急車を要請して、救急隊員に来てもらったんですけども、
本人が拒否しており、そのまま帰ってしまいました。我々
(天羽地区地域包括支援センター)の方に相談があったので、
地域の医師に相談して、往診していただいて。それでも、医
師の言うことも聞かず、入院は拒否されたんですけども。

そのときには、有事(容態急変)のときには、その先生の病
院に搬送、入院するという段取りを取って。救急車を呼んだ
時には、そういう段取りで主治医と話ができているから、速
やかに医療機関へ運んでくれと言うことで、終わらせたん
ですけども。

その後、1週間余りにわたって、担当ケアマネが毎日のよ
うに安否確認をしてくださいましたが、タイミングが会わず
に亡くなってしまったということがありました。そうなる
と、警察から事情聴取を受け、なぜ入院させなかったのかと
かなり詰問されたようです。

これに関しては3包括と富津市ケアマネジャー協議会の
深牧会長、消防と警察も巻き込んで、そういった事態に対し
スムーズに事を運ぶため、研修会を計画しています。

予め、本人の意思を尊重するということはまったく構わな
いんですけども。本来的に、現場で困るのは医療拒否があ

	<p>る人なので、そういったことも含めたうえで、医療機関と介護事業所の連携が取れたら良いなという思いがありまして。それだけ伝えたかったなので、以上です。</p>
<p>三枝会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>たしかに、現場での医療拒否は十分あり得ることで、それをどういうふうに扱ったらよいのか。この場だけの問題ではなく、警察や消防と話し合うべき問題かとは思いますが。</p> <p>そういったことのために、一つはACPというものがあり、予め、ある程度意思を聞いておく、という。ただ、そうしたことも拒否する方にはどうしたらよいのか…</p> <p>ある意味、人生観だと思いますので、勝手にするというのも一つの方法だと思います。それを富津市だけでなく、四市、あるいは千葉県全体でどうやって共有していったら良いのか。本人が拒否しているから、その意見を尊重しよう、これも一つの意見だとは思いますが。</p> <p>たとえば、ACPを開いても、私は死にたい、殺してくれと言われたときに、我々はどうするか。非常に奥が深い問題かとは思いますが。なかなかここで結論は出ないと思います。</p> <p>逆に、こういったことを今後のテーマとしていくというのも一つの方法かとは思いますが、よいご意見をいただきました。ありがとうございました。</p> <p>ただ差し当たって、文章についてはどうでしょうか。</p> <p>この文章としては、「本人の意思を尊重したうえで」ということで、尊重するというのを大事にしている、この文章でも良いかと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>三辻委員</p>	<p>藤野さんのとても良いお話を聞けたと思ったんですけども。そういった現場で問題があるけれども、目指すところは「本人の意思を尊重したうえで、急変時に適切な対応ができる」ように。</p>

	<p>こういった課題も、先生がおっしゃっていただいたように、社会の認識を変えていくのかとか、警察とか消防と話し合っていくのかとか。この体制を目指すためにそういう課題をどうしていこうかということであれば、文言はこれで良いかと思いました。</p>
藤野委員	<p>私も、文言に関してはこれで問題ないと思います。</p>
三枝会長	<p>よろしいでしょうか。それでは、最後の看取りの方に行きたいと思います。</p> <p>看取りについては、先ほども言いましたけれども、「最終的に、すべての利用者がよかったと思える理想の最後を迎えられるような看取りができるようにする」。なかなか理想的な看取りと言うのは難しいものなんですけれども、ご意見ございますでしょうか。</p>
	<p>(意見なし)</p>
三枝会長	<p>よろしいでしょうか。あくまでも目指す姿ですので、その通りできるかどうかというのは、これからの我々の研さんだと思っておりますけれども、文言としてはこれでよろしいでしょうか。ありがとうございました。</p> <p>それでは、目指すべき姿が決まりましたので、それを念頭に、今後の活動ができればと思います。</p> <p>以上で本日の議題はすべて終了しました。委員の皆さまから「その他」で何かありますか。</p>
	<p>(意見なし)</p>
三枝会長	<p>事務局から何かありますか。</p>
事務局 (中村係長)	<p>2点、ご連絡いたします。</p> <p>1点目です。議題関連資料61ページをお開きください。</p> <p>こちらは、令和4年度における認知症初期集中支援チームの支援記録の概要をまとめたものとなります。今年度は11件の認知症のケースについて、認知症地域支援推進員をはじめ</p>

	<p>め、ケアマネジャー等のチーム員が対応し、受診支援等を行いました。</p> <p>委員の皆さまにおかれましても、ご承知いただければと存じます。</p>
事務局 (中村係長)	<p>2点目です。本日の会議録等は、市のホームページへ公開いたします。準備ができましたら、メール等で委員の皆さまへ周知いたします。</p>
三枝会長	<p>それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回富津市在宅医療。介護連携推進会議を終了いたします。</p> <p>お疲れさまでした。</p>
事務局 (中村係長)	<p>ZOOMで参加の皆さまについては、各自退室の方をお願いいたします。ご来庁されている方については、お帰りの際、職員通用口からお帰りいただければと思います。お疲れさまでした。</p>